

=====  
本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより会員の皆様にお送りしております。

=====

◆◇

◆ NEE Mail Magazine 95号 ◆

-----2016-12-2◆◇

師走、はやくも12月になりました。一年の速さを実感する月です。

三学期制の学校では期末考査、成績処理、終業式と行事が続きます。中学三年生の担任の先生は三者面談がつづくかと思います。高校では二学期の成績が出ると調査書作成の仕事が待っています。大学はその点、今月は特に行事はないようですが年明けからの入試本番まえの嵐の静けさでしょうか。とはいえ、今は大学も推薦入試がかなりのウエイトを占めているので、季節感など吹っ飛んで、一年中師走状態は、大学にも押し寄せているかもしれません。

そんな初冬、今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

-----  
【 1 】 最新活動報告

11月の活動を報告します。

【 2 】 イベントカレンダー

冬の経済教室、部会の案内などを紹介します。

【 3 】 授業のヒント

-----  
【 1 】 最新活動報告

-----  
最新のニュース、11月に行われた活動などを報告します。

■大阪部会 (No. 51) を開催しました。

日時：2016年11月12日(土) 18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト

内容の概略：参加者13名。

(1) 野間敏克先生(同志社大学)から、最近の経済教育ネットワークの活動が報告されました。

(2) 大塚雅之先生(三国ヶ丘高校)から、高校政経の社会保障制度に関する授業実践が報告され、討論が行われました。

社会保障のしくみや日本の制度などを学んだ後に、社会保障制度を多面的に分析し、いくつものトレードオフの状況を実感させることを目的とした授業です。この授業案では、ペアワーク、グループワーク、ジグソー学習の要素も盛り込まれた活動型の授業となっています。

(3) 西浦修太先生（京都府立木津高校）から、国税庁宇治税務署の「租税教室」との連携授業が紹介されました。この授業では、模擬札束を使って関心をつかみ、ワークシートでの書き込み作業を使って、生徒の学習意欲を高めるなどの工夫が凝らされたものです。

(4) 久保田賀壽雄先生（同木津高校）からは、現代社会の金融政策単元の学習指導案が紹介されました。現金通貨と預金通貨、準備預金制度と準備率の役割、信用創造と乗数計算などを学習内容とし、西浦先生と同じく「租税教室」と連携して、授業内で模擬札束を教材として活用したものです。

討議では、野間先生から、貨幣乗数の実際の値が紹介され、バブル期と現代の違いやその原因を説明が行われました。また、日本においては預金準備率が1991年以降変更されておらず、金融政策手段としては使われてないことなどが紹介されました。

(5) 李洪俊先生（大阪市立長吉中）から、2016年の公立高校入試問題の分析報告がありました。

2015年度にみられた効率と公正、対立と合意に関する入試問題が激減したこと、具体的な生活に関係する問題が増えたこと、教室での言語活動強化にあわせて文章で書かせる問題が非常に増えてきていることなど、興味深い指摘がありました。

内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka51report.pdf>

■東京部会（No. 87）を開催しました。

日時：2016年11月17日（木） 19:00時～21時30分

場所：日本大学経済学部本館2階会議室A

内容の概略：参加者8名

(1) 来年3月25日の年次大会の内容構成が検討されました。

テーマは「主権者教育と経済教育」。プログラム案をもとに内容構成を検討しました。

第一部は主権者教育と経済教育に関しての国立教育政策研究所の大杉昭英先生の講演、金子幹夫先生（神奈川県立平塚農業高初声分校）の実践報告を中心に展開します。

第二部は社会保障をテーマに升野伸子先生（筑波大学附属中）の授業提案ほかを行うことを基本にすることになりました。講演者、実践報告者をさらに付け加えて最終的なプログラムにする方向でさらに検討することになりました。

(2) 冬の経済教室の取り組み状況、来年夏の経済教室の日程や内容に関する検討を行いました。

冬の教室で沖縄に関する教材を準備中であることが加藤一誠先生（慶応義塾大学）から報告されました。

来年の夏の経済教室日程は、8月上旬に名古屋（ウィンクあいち）、大阪（国民会館）、8月中旬に東京（東証ホール）で調整することになりました。

(3) 宮尾尊弘先生（筑波大学名誉教授）の「これさえあれば質問も発表もらくらく」の紹介と検討を行いました。

これは、宮尾先生がアメリカから送付された資料で、ディベートや授業における質問の方法、準備のところがまえ、プレゼンテーションなどの発表に関する方法や注意点をまとめたものです。生徒だけでなく教員としても役に立つ資料であるという評価が寄せられました。

(4) 参加者全員から現在取り組み中の課題等に関する報告を行いました。

(5) 読売新聞の「新聞のちから」企画の紹介が加藤先生からありました。

これは、読売新聞の記者が、新聞を使った講義と文章の添削を行うもので、企業研修や就活中の学生や大学入学前の高校生の事前指导向けのプログラムですが、高等学校など学校でも活用できるので、検討してほしいという要請がありました。

内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo087report.pdf>

■名古屋部会（No.9）を開催しました。

日時：2016年11月26日（土） 15時00分～17時00分

場所：椋山女学園大学 現代マネジメント学部棟

内容の概略：参加者13名。

(1) 水野英雄先生（椋山女学園大学）から、愛知県立南陽高等学校で大学生と高校生の交流授業である「教えあい・学びあい交流授業」を実施した報告がありま、この企画を広げたいとの要望がありました。

(2) 佐藤央隆先生（名古屋市立はとり中）より「江戸時代の経済政策を比べよう」をテーマに歴史授業の中での経済に関する授業実践の紹介がありました。

この授業は江戸時代の徳川吉宗・田沼意次、松平定信の経済政策を比較し、班に分かれてその特徴をまとめキャッチフレーズを考え、理想のリーダーを選ぶことで、合理的な意思決定や立場の相違によって異なった政策が選択されることへの理解をねらった授業です。

この授業実践は証券普及プロジェクトの『レインボーニュース Vol.32』「ユニーク授業紹介」に掲載される予定です。

(3) 部会間交流で東京から参加された埜枝里子先生（東京都立府中東高）より「交換の経済学～交換はいつでも利益を生むって本当?!～」という、比較生産費説を国内の問題を用いて教える授業実践の紹介が行われました。

教科書では比較生産費説を国際経済（貿易の意義）にて扱っているが、機会費用の概念を用いて国内の個人の問題に援用することで自らの在り方や生き方を考察するような視点を持たせようという狙いの実践です。

(4) 中根大志先生（聖カピタニオ女子高）より「株式学習ゲーム」と「株式会社調べ」の実践」をテーマに授業実践の紹介が行われました。

株式学習ゲームや株式会社調べによって生徒は社会に目を向けるきっかけとなり、日々のニュースに対する関心も高まったこと、「将来、株を買ってみたい」という生徒の感想もあり、知的好奇心も高められたとの報告でした。

(5) 東京部会から参加した、新井（上智大学）が経済教育ネットワークの活動、特に東京部会での取組の紹介をおこないました。

内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/nagoya/Nagoya009report.pdf>

---

## 【 2 】 イベントカレンダー

---

\* イベント予定です。

■ 冬の経済教室（東京）を開催します。（既報）

日時：2016年12月27日 13時00分～16時45分

場所：慶應義塾大学 三田キャンパス 東館ホール

内容、参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/keizaikyousitu/2016%20keizaikyoushitsu/2016GeoFuyukeizai.pdf>

■ 冬の経済教室（札幌）を開催します。

日時：2017年1月28日 13時00分～17時00分

場所：北海道教育大学（札幌）サテライト教室

内容、参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/keizaikyousitu/2016%20keizaikyoushitsu/2017SapporoFuyukeiaiR.pdf>

\* 定例部会のお知らせです。（開催順）

■東京部会（No.88）を開催します。

日時：2016年12月27日（木） 17時00分～18時00分

場所：慶應義塾大学 三田キャンパス 研究室棟4階 446会議室

参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo088flyer.pdf>

■名古屋部会（No.9）を開催します。

日時：2017年1月21日（土） 15時00分～17時00分

場所：椙山女学園大学 現代マネジメント学部棟

参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/nagoya/Nagoya010flyer.pdf>

■札幌部会（No.17）を開催します。

日時：2017年1月28日、冬の経済教室をかねて開催します。

■大阪部会（No.52）を開催します。

日時：2017年2月18日（土） 18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト（予定）

参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka52flyer.pdf>

\*関連団体の報告です。

・日本取引所グループ「先生のための 冬休み経済セミナー」

日時：2016年12月30日（金）

場所：東京証券取引所東証 Arrows プレゼンテーションステージ

詳細は下記をご覧ください。

<http://www.jpx.co.jp/learning/education/school/for-teachers/index.html>

・証券知識普及プロジェクト

『レインボーニュース Vol.32』が発行されました。

<http://www.kinyu-navi.jp/textbook/contents4/index.html> に掲載予定で

す。

・読売新聞「新聞のちから」

<https://info.yomiuri.co.jp/service/study/index.html>

---

### 【 3 】 授業のヒント

---

#### ■ 金融政策を実感する三つの方法

若い公民の先生に聞かれました。「金融で日本銀行の金融政策の個所になったら生徒の授業への関心がてきめんになるのがわかります。先生どうしたらいいでしょうね」。

たしかに、日本銀行の金融政策は生徒にとっては遠い世界の話かもしれませんが。だいたい、コール市場のオーバーナイトものの金利なんて、聞かされても生徒がピンとこないのは当然かもしれません。教えている教員だって、知ったかぶりなんですから。

でも、そこで終わっては教育になりません。若い先生には三つ提案をしました。

一つは、自分が日銀の政策委員になって、日本経済の各種データを踏まえて政策決定を行うシミュレーションを作ってみるということです。これはかなりレベルの高い生徒向けです。

政策は、金利を上げる誘導をするか、それとも現状のままでよいか、下げるかの三つでよいでしょう。経済の現状からどんな性格が必要かを自分が決定してみるという体験は金融政策の担い手になった気分になるという意味では貴重な体験になるのではというのが提案です。

次は、もし日銀（中央銀行）なかったらという想定をさせることです。これは歴史好きが多いクラス向けです。

ヒントは、アメリカの国法銀行制度、日本の国立銀行の時代です。NHKの朝ドラ『あさが来た』でも主人公の広岡朝子の実家の三井家が第一国立銀行の設立に参加するエピソードが取り上げられていました。今は、発券銀行は日本銀行だけというのが当たり前になっていますが、そうでなかった時代にどんなことが起きていたのか伝えるだけでも金融政策に少しは関心が向くかもしれません。

三番目は、模擬紙幣を使ってヘリマネ（ヘリコプターマネー）を実演することです。これはどのクラスでも使えます。

ヘリマネとは、あたかもヘリコプターから現金をばらまくように、中央銀行

あるいは政府が、大量の貨幣を市中に供給する政策のことで、米国の経済学者フリードマンが用いた言葉です。古典的な貨幣数量説、貨幣量×流通速度≡物価×取引量という式に基づく政策です。

貨幣数量説がどこまで正しいのかは議論がありますが、教室を半分に分け、片方には二倍の紙幣を持たせたら何がおこるかを実験してみることで、マネーストックと物価の関係を実感させるという方法です。ヘリマネを投下するか否かの意思決定、という政策問題と結びつけると、少しは関心が高まる可能性があります。

二番目は、政策ではありませんが、正確な知識を教え込もうと頑張るだけでなく、手をかえ品をかえ生徒の関心を高める工夫をしてみたらというのが若い先生向けの提案です。

はたして、質問者はどれかをやってみたかな。 (新井)

---

#### 【 4 】編集後記 (みみずのたはこと)

「もしトラ」が「まじトラ」になりました。マスコミも多くの論者も予想していなかった展開です。得票数が 200 万票も差があるのに、トランプ大統領登場です。経済だけでなくこれからの世界の動向が注目されます。

経済教育には即効性はありませんが、「これからどうなる」を見据えるためにも、また、「これからどうする」を考えるためにも、私たちの真価が試される時代になってきているともいえるでしょう。 (新井)

---

登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

(C) Network for Economic Education ◆◇